

夢に向かって

たくさんの人を笑顔にしたい——

中野 ^{ここな}心那 さん (県北中3年)

私の将来の夢は、文学に携わる仕事に就くことです。出版や編集のような「本を生み出す」仕事にも興味をもっています。

私は小さいころから本が大好きで、本に触れる機会が多かったです。今でも、毎日の息抜きに本を読んでいます。大変な時や迷った時に本を読むと、頑張ろうという気持ちになれるし、主人公や登場人物に自分を重ねて、いろいろな本の世界に入り込むことができます。そんな本の魅力をたくさんの人に知ってもらいたいと思っています。

高校を卒業したら大学に進学し、文学部に入って日本語の語彙力を高めたいと思っています。大学進学を目指し、まずは高校受験に向けて勉強を頑張りたいです。最近では、日本の本の文化を海外にも広めたいと思うようになりました。そのためには英語力を身に付け、海外の人とコミュニケーションをとることが必要だと思うので、英語の学習にも力を入れています。

私自身、楽しい時もつらい時もいつも身近に本があったし、本から力をもらっていました。文学や本に関わる仕事に就いて、多くの人を笑顔にしたり、勇気づけられるようになりたいです。



吹奏楽部では部長を務めていた中野心那さん。毎日欠かさず本を読んでいるそうです。「本の魅力をたくさんの人に伝えたい！」と目を輝かせて話してくれました。

町長コラム



ま真こらむ

【第17回】

観月台体育館

3月の地震で使用を見合わせていた観月台体育館。宮城県沖地震、東日本大震災、去年の福島県沖地震と何とか持ちこたえていたけど、解体を決める。

これまでは「昭和48年にできた体育館だけど、管理計画に沿って使用できる間は使用する」という考え方でも、今年地震で、この考えを再検討しなければならない状況に。これが観月台体育館の1つ目の想定外。体育館を利用していた人たちを中心に意見を聞く。結果は「存続」と「解体」が半々。これと並行して、地震被害の修繕と併せてトイレの洋式化、照明器具のLED化、ユニバーサル化といった今様の使いやすさに配慮した大規模改修、そして解体の2つの経費算出も進める。その過程で建築の専門家に意見を聞く。と、「アスベストが使われている」と。2つ目の想定外。これが大規模改修して存続するという望みを打ち砕く。併せて小学校体育館に避難所機能を委ねることも決める。

引地にも、この体育館への思いがある。部員だった県北中吹奏楽部が、初めて東北大会に出場した翌年に開いた第1回定期演奏会が、ここ。東日本大震災の避難所として1600人を包み込み、守り、不安を受け止めてくれたのも、ここ。なくすのはやっぱり寂しい。でも…。寝てるような体育館を見るたび「長い間ありがとう」と呟いてる。

引地 真

